JAみどりの田尻営農センター TEL 0229-38-1055

活動PR 支援施策·制度構築

シナイモツゴ郷の

NPOと農家グループの協働

小学校への環境学習の実施

NPOが農家の取り組みの

保・発信するサポートをしています。

05

の保全活動とお米のブランド化に取り組み、成果 をあげているという点で、同様の課題を持つ他の 地域にとって参考になる事例です。

地域の小学校への環境学習として、希少魚の人

工繁殖などを行い情報発信することによって、地

域への活動の広がりや認知度が高まっています。

NPO法人シナイモツゴ郷の会が第三者機関として米

の栽培認証も担当し、農家の取り組みの確かさを担

シナイモツゴ郷の会

開 3 る

との共生を目指した農業が展開されています。 中心に、ガンなどの渡り鳥をはじめとした生きもの 宮城県の北部に位置する大崎市では、田尻地域を

宮城県

水田農業

開しています。 ぐらを拡大させる取り組みを展 水を張る「冬期湛水」を実施。 (蕪栗沼)の周辺の水田で、かぶくりぬま ねぐらになっている沼 冬も ね 地

ねぐらの沼地から飛び立つマガンの群れ

à

10

みず

んぼ米

ŋ

ます。そこで、

ガン

の

います。 農法の成功にも役立って せ、除草剤を使用しない とで発芽させにくく 子を土中に埋め込むこ る柔らかな表面土壌(ト ミズの活動によってでき を育みます。 多くの水辺の生きもの トロ層)は、 冬期湛水は、 特にイトミ 雑草の種 同時に

日本人の文化に深く関わってき

冬期湛水を実施中の水田

きなどに全滅する危険性が高ま 集中すると、伝染病が発生したと ンの群れが限られた場所に極端に 中する傾向が強まっています。 に、ごく一部の越冬地のみに一極集 など)は、その数が減少するととも た渡り鳥のガン(マガン、ヒシクイ

この冬期湛水の水田

ています。 で生産さ の収入の安定化にも貢献し みずたんぼ米」というブラン 米として販売され、 れたお米は「ふ 農家

F,

た。今では「ここを選んで来の意識変革をもたらす取り組の意識変革をもたらす取り組みが大事です。以前の農家のの意識変革をもたらす取り組

代表取締役社長 (株) たじり穂波公社 堀江敏正さん

条約登録による新たな価値認識 ガンの越冬地の沼地(蕪栗沼)とあわせ、

周辺の水田もラムサール条約※登録湿地と

なりました。稲作の舞台の水田は、同時に

多様な生きものの生息環境でもあることを

表す「農業湿地」という新たな価値認識を

※特に水鳥の生息地として国際的に重要な

環境保護団体、研究者、行政関係者、第3

セクター、生産農家など、様々な主体が参

画することにより、保全活動を支えるお米 の商品化、販路確保を成立させています。

(株)たじり穂波公社 TEL 0229-38-1021 WEB http://www.honamikousya.com/

多様な主体の参画による

湿地に関する条約

活動推進

ふゆみずたんぽ米 のラベル

支援施策·制度構築

ふゆみず用んぼ

たじり穂波公社

越冬するガンの数

約10万羽

生産組合

認証シール

シナイモツゴ郷 しまだい に広く生息してい かつて東北地方 0

シナイモツゴ モツゴは、 た淡水魚のシナイ

農業や、

消費者交流、産直活動、

てきた様々な手法の環境保全型 では、これまでに地域で展開され

大崎市の田尻地域(旧田尻町)

尻地域 きも

0

査

ブ

口 0

工

ク

田んぼの 生きもの宣言

田んぽの生きもの宣言!

念のもとに関係団体が連携し、

ζV

Ļ

活動の展開に活用しています。

NPO活動等について、

共通の理

きもの宣言!」マ

ークなどを作成

現するものとして、「田んぼの 行いました。また、その理念を表

生

し、具現化していく 能性を共通認識

ための宣言を

により絶滅寸前となっています。 息地である溜め池の埋め立てなど ラックバスによる食害や、主な生 生存競争に敗れたり、外来魚のブ に移植された近縁種のモツゴとの 人為的

溜め池の生態系の保全と再生に か、ブラックバスを駆除するなど、 開。産卵に適した環境づくりのほ 元のNPO法人と農家グループに より、この溜め池を守る活動を展 大崎市の鹿島台地域では、地

質的な食と農のあり方や、本来的

こうとする取り組みです。 な消費行動を地域から発信してい

その発足にあたり、

田んぼの生

物多様性が持つ様々な意義と可

佐々木陽悦さん

家と消費者の恊働で行われる「生

JAと生協の連携によって、

農

コメント

ことで、参加者の取り組み意識を化を目指すという位置づけにする化を目指すという位置づけにするで、実施を通じて生産技術の安定に関わっていま

きもの調査」などを通じ、より

本

もらい、農家が自ら関心を持つよ 様性が持つ多様な意味を理解して を関いである。生物多

から始まりました。

いこうという取り組みが平成21年 とつのプロジェクトとして実行して

保全されている溜め池の水を使

会長 吉田千代志さんシナイモツゴ郷の米つくり手の会

られ、地元を中心に各地に向けいシナイモツゴ郷の米」と名づけ 用して作られたお米は「かしまだ

ナイモツゴの郷」というブランの農産物にも取り組みを広げ、 中心とした環境整備」という目標が指定の天然記念物シナイモツゴ等を で行っています。将来的には米以外もらい、販売や情報発信などを協働 だけでなく地域の方々にも参画して なりました。つくり手の会には農家 打ち出されたことが活動の契機と 地域活性化のビジョンの中で、



溜め池の

牛熊系保全活動

て販売されています。



米袋

かしまだいシナイモツゴ郷の米つくり手の会 TEL 0229-56-5746 MAL h-sugai@mub.biglobe.ne.jp WEB http://satonomai.jp/

取り組みの 0

先進・先行事例に 学ぼう。

事例編では、全国各地で行われて いる様々な取り組みを紹介します。 絶滅しそうな生きものを守ろうとす る活動がある一方で、身近にいる 地域の生きものたちをより豊かに育 もうとする例もあります。また、外 来生物の駆除と湖の水質改善を進 める活動や、地域の景観を守りな がら進められている取り組みなども あります。それぞれの事例から、あ なたの地域での生きものマークの 構想を育んでみましょう。

あると言っ

われてい

失って

まったこと

そこで豊岡

市と兵

/庫県

は「コウノ

トリ

,育むお米」

そのようにして生産さ もらっています

n のとり たお

う米 Α

安定化にも貢献して

を通じて販売され、農家の収入の名のブランド米として地域のJA





46年に絶滅してしまい トリ は、高度成長期 遡れ ずす ō 水田の上空を舞う野生コウノトリ

るようにする るフナ 成長を助けたり (「コウノ 生き 0 ることでオタマジャクシな 8 制の構築を進め、 ・ます。 連携 の取 普及や農家との協力 ものを やナマズが水路から の実施時期を遅らせ h 具体 しない 組みを展開して 農薬をできる ための魚道を :的には、 育む農法」) 田で育むた 水田で産 稲作技術 様々な 中

いという想いから、「コウノトリ音のという想いから、「コウノトリ音の関系の意識が変わりました」と際に農地に来るようになり、多実際に農地に来るようになり、多

コウ

む

農法」に取り組む農家も増えて

畷悦喜さん

コウノトリ野生復帰

関連商標管理



の

和

ま

た。その最後の生息地であった

庫県北部の豊岡市では、

人工

農家には「コウノ設置するなどです

するなどです。

また、

協

力

トリを野生復

る地域づくり」

への想いを共有し

を共生す

が生息



農家による合同勉強会

により、

餌の魚やカエルなどが減

かつて使用

1)

が

滅んだ背景には

された毒性の強い農薬

できる環境づく 帰させるため、コウィ 増殖させたコウノ

りに取り組んでい

蓄積した有害物質により繁殖能 少したことや、餌を通じて体内に

目的の明確化と 共感できる成果 「コウノトリの復活」という明確な目的が あったこと、またコウノトリが実際に放鳥 されたことで多くの地域関係者や消費者 の間に「生きものが豊かに暮らせる環境づ くり」に向けた共感が生まれました。

メディア活用やJAの

協力による参画しやすい 環境づくり

メディア等で紹介されたことによる知名度 の高まりや、JAが販路を担ったことによる 産物のブランド化促進により、多くの農家 が参画しやすい状況ができ上がりました。

コウノトリ育むお米 生産部会会員数(豊岡市内) 51人·団体(平成18年) 153人·団体(平成21年) コウノトリ育む農法 実施面積(豊岡市内)

41.7ha(平成17年) 212.3ha(平成21年)

アドバイス

生産部会運営

曹四唐华

栽培支援 流通·販売連携

改良普及センタ・

コウノトリ音むお米

生産農家

氾濫後の休耕田で魚を捕る野生コウノトリ

新たに開発された可動式の亀カエルスローフ

収穫時に飛び出すカエルを求めて群れるチュウサギ

道を作 17



希少種のナゴヤダルマガエル



水路で捕らえた魚を水田に放す 「子供の手のひら魚道」

生きも 「たかしま生きも 滋賀県北西部の 田 の 田んぼ米」 高島市では ん ぼ プ 置。 に上がりやす 口

Story 03

滋賀県

高島市

水田農業

ま

工

安心」の三つの安心の達成がモッ 心 ための取り 境保全型のブランド米を生み出す な自然との共生をテ 機農法研究会による、 応じた農家グループ・ いう名の米づくり 」「消費者の安心」「生きものめの取り組みです。「 農家の 高島市の呼びかけに っが行わ 地域の豊か たかしま有 マとした環 れていま 安 の

技術と品質の向上にも努め、

ガ

ープでお互いの農地を巡回して

水路に来る田んぼではお手製の り豊かに暮らせる環境づく 以上設定、 様々な生きも 田を自分で観察し、 の「自 組んでいます。 れぞ 慢の生きも れの農家が耕 その生きも のの中 フ る ナやナマズが の」を3種 からお気に入 そこに暮らす 水路では陸はお手製の魚 のたちがよ 作 りに取 る 類

> ても気をつかっています。品質管理、特に食味の気 りも取 にどれだけ取り組んでいても、 いただけません。ですからお米の美味しくなければ継続的な支持 自然の一員だと思えるり組みを進める中で、 進める中で、 自分た 性の保全

たかしま有機農法研究会

長



高島市農林水産振興課

E-MAIL info@ikimonotanbo.jp (たかしま有機農法研究会) WEB http://www.ikimonotanbo.jp/ (たかしま有機農法研究会)

TEL 0740-25-8511 (高島市産業循環政策部農林水産振興課)

証しあう「合同調査」も実施 栽培状況や生きもの共生策を検



に中干

しの延期やビオト

プの造

また水生昆虫やカエルのため

を設

の豊かさに応じた多様な取り組 成をするなど、生きものの顔ぶれ

みが展開されています。

同時に、

農薬を使用しない栽培

ロゴマーク



TEL 0796-21-9017 E-MAIL kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp WEB http://www.city.toyooka.lg.jp/

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

JAたじま米穀課 TEL 0796-24-2205 WEB http://www.ja-tajima.or.jp/

草原再生シールを貼った野菜





阿蘇の草原 (採草地)

活性化の取り組みが進んでいます。

を舞台に、草原再生と畑作農業の 阿蘇地域では、広大な草原・原野



ラベルを用いて活動を可視化 阿蘇草原再生シールを用いて、草原環境 の保全に貢献する伝統的な農業活動を可 視化しています。

阿蘇地域の直売所など

原料調達と生態系保全を一体化

霞ヶ浦の事例(Story06)と同様、たい肥 の原料調達と地域の生態系保全を一体で 行うことができる取り組みとなっています。

阿蘇草原再生シール生産者の会事務局 (阿蘇自然環境事務所内)

TEL 0967-34-0254

霞ヶ浦・北浦の 漁業者

霞ヶ浦漁業 協同組合連合会/

広域漁業協同組合

地元スーパーマーケット (カスミ)

流通・本業を ほか

市民主体で霞ヶ浦の環境再生事業を展開す

る地域のNPO法人が取り組みを企画し、漁

協や農協、魚粉加工業者、小売店など、多

様な主体との関係づくりを進めながら活動を

NPO法人アサザ基金 TEL 029-871-7166

通じた協働

多様な主体が連携する

仕組みを構築

プロデュースしています。

E-MAIL asaza@jcom.home.ne.jp

WEB http://www.aso-sougen.com/producer/index.html

原料水揚げ依頼

アサザ基金

農家

魚粉(肥料)提供 ブランド化支援



植林に伴う森林化、農地化などに

た。しかし現在は、管理放棄や

より、草原の縮小が進んでいます。

ことで、

人為的に維持されてきま

行っています。

漁師と農家が参画する循環型経済 化。その課題解決を目指し、流域の の悪化と生物多様性の消失が深刻 化、外来魚の侵入などにより、

システムの構築が進みつつあります

それは、湖で捕獲した外来魚(ブ

を貼り地元の直売所などで販売を 野菜を生産し、「草原再生シール」

(刈り干し切り)を繰り返し行う

人里の草原は古来、野焼きや採草

採草の様子



世界最大級のカルデラを擁する

Story 05 熊本県 阿蘇地埃

畑作農業

再阿

ススキなどの野草を採草して野草会」の農家は、約25 haの草原から たい肥を製造。このたい肥を使って 「阿蘇草原再生シー ル生産者の 阿蘇 草原再生 草原再生シール

生産面でもメリットがあります。直り養分を吸収しやすくなるなど、料に比べて土壌に微生物が多くなくいい。 **てに訪れる方も徐々に増** 売所では、シール付きの 販路も広げていき 今後は野菜の種類を増や ル付きの野菜目 なるなど

生態系が形成され、多様な草花や

野

市原啓吉さ

の会

阿蘇では今もなお、独特の草原

ことで、 ら回収し、 富栄養化の原因となる物質を湖か 魚体に含まれる窒素やリンなど に肥料として活用するというもの ンなど)や、未利用の魚(ボラ、ニゴ ラックバス、 の保全を促す イなど)を魚粉加工し、 湖水の浄化や生物多様 流域の農地で活用す アメリカナマズ、ハクレ 野菜栽培時 いがあり

Story 06 国内第二の面積を誇る湖・霞ヶ 茨城県 畑作農業

浦では、水資源開発による影響や 農畜産業の排水流入による富栄養 菜た す。活動を通じて湖から取り出さ

達します。 がよろこぶ野菜たち」というシリ 17年からの4年間で約380 れた外来魚・未利用魚の量は平成 この環境循環型の農産物は「湖 t C

水質

ズでブランド化され、 から活動推進のためにも、そういっ物語がより重要だと思います。です 向上も大切ですが、その背景にあるこうした取り組みでは産物の品質 ケットで販売されています。 地元スー その背景にある



霞ヶ浦の再生や流域 と良いでしょう。アサザ基金ではた物語を持つシンボルを設定す

のシンボルと

いでしょう。アサザ基金では

生物多様性の保全や持続的利

左から 外来魚の水揚げ

パーマーケットでの野菜販売の様子

子どもたちとの生きもの調査 であること、 ること、エコファーマ きものを育む農法」を採用してい 道・ビオ り」認証制度が発足しました。 業(水田稲作)の活性化」をコンセ なって一ト である農業の閉塞感が高まる中 家の高齢化など、地域の主要産業 の価格低迷や売れ残りの発生、 この制度は、 成19年に佐渡市役所が中 新潟県佐渡市では、野生復帰を した「朱鷺と暮らす郷づく 組みが進んでいます。 キと暮らす郷づくりに向 キの餌場確保」と「農 ープの設置などの「生 特別栽培を行ってい

の認定農家

年

も好調に販売が続いています。

00円程度向上し、平成21

冬期湛水や江・毎

たものが、

平成20年は完売。また

農家の収入も1

俵(60

㎏)あたり

5, 0

程度)が売れ残ってい

の生産量のうち約2割程度(毎年

者や消費者の共感を呼び、平成17 による取り組みが島外の流通業

19

年

の3年間は佐渡全体の米

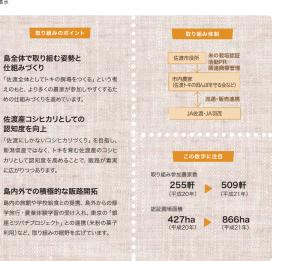


水田にやってきたトキ

稲刈りイベントの様子



冬期湛水



佐渡市産業観光部農業振興課

TEL 0259-63-5117 WEB http://www.city.sado.niigata.jp/eco/info/rice/index.shtml

り組みを認証。 り認証米」のラベルを貼っ 「朱鷺と暮ら 認証の 佐渡市が農 もと コメント 佐渡にはトキがいます

家

取

となどを基準に、

水田農業

朱鷺と暮らす

す。希少生物がいない地域でも、のに限定されるものではないはず とが大切だと思います 冢自らが地域の良さや クの取り組みは希少な生き - 共生の物理 生きも

记役所 産業観光部農業

農 米

す郷づく

に栽培された米は、

て販売を行っています

島内の農家、

2政の連携



08